



もりメイト倶楽部 Hiroshima 発【森づくり啓発シリーズ】

～こんな事にも関わっています～



【太田川源流の森間伐体験】は、「太田川流域水源涵養推進協議会」の主催で、毎年、吉和の太田川源流の森にて開催。《豊かな森は緑のダムとなり美味しい水を作る》ことから、太田川の水の恩恵に預かる市や町の住民を交替で募集し、森林整備や森の学習を行ない、毎回、倶楽部からたくさんの講師を派遣しています。今年、大崎上島町、東広島市、竹原市、広島市の皆さんが参加されました。

「源流の森間伐体験・指導補助に携わって」

～10月21日(土)～

4班：ナンタボンサ パンヤ



間伐の方法を説明するパンヤさん。(ご出身はラオス)

■私が「もりメイト倶楽部」での活動をするきっかけとなったのは2018年の7月豪雨災害でした。それまで他の地域でも豪雨災害による被害を目の当たりにして自然環境や気候変動に対して自分にできることはないか模索していた時期でもありました。そして7月豪雨により私の家の前まで土砂が流れてきて直接ではないにしろ被害が身近で起きたので居ても立っても居られず広島市農林水産振興センターが開催している「もりメイト育成講座」の門を叩いたのです。時はコロナ禍もあり何度か講座が中止や延期となりましたが何とか修了することができました。その期間中にご指導して頂いたもりメイト倶楽部の講師の方々とのご縁もあり当会に入会する運びとなったのです。そんなまだまだ山や森の知識や技術が未熟な私に体験会指導の案内メールが届きました。何かの間違いかと思いました。育成講座に携わっている見勢井顧問からも「これも経験」と背中を押され参加することとなったのです。また顧問から体験会を指導するにあたり間伐について復習しておくように助言を頂きました。急いで講習会の資料を引っ張り出して当時間き流していた知識も改めて読み返すと当日の作業はちゃんと理にかなっており何事も事前の準備が大事なのだと再認識しました。

■当日は秋晴れとなり数日前に降った雨で空気が澄んでいましたが山奥に入っていくにつれ肌寒さも感じました。もりメイト倶楽部の指導者と水道局の職員の方々と入念な打ち合わせをしてからそれぞれの作業場所へ移動、予め間伐する木に受け口・追い口をチョークで印をつけてから掛り木にならないような方向に倒すためのロープや滑車もかけて体験会参加者の到着を待ちました。班長

と補助の2名で1グループに対応して、体験会参加者は会場に着くまでに間伐の目的や方法を座学にて情報を得ており、私は説明図を使用して間伐方法を説明するだけで安堵しました。今年例年よりも半数程度の参加者とはいえ限られた敷地で木を倒すために一番強調されたのは安全面であり、周囲に気を配るだけではなく作業工程を周囲に周知するような倶楽部の取り決め・ルールも打ち合わせで徹底されました。■担当した班は家族連れで低学年の子供たちが不慣れなノコギリの扱いに悪戦苦闘する傍らで見勢井顧問は的確に技術を指導するだけでなく親御さんにも木の特性や効能など、森に関わることに興味を持ってもらえるような智慧も教授されており己の勉強不足を改めて痛感しました。受け口・追い口が済みいよいよ倒木にかかる時が一番注意を要し、不意な倒木で怪我がないように誘導できたのは家族間でしっかりコミュニケーションが取れていたからではないかと推測されます。そしてグループ全員で周囲の安全に配慮して倒木した後は家族総出で玉切りを行い参加者全員が楽しめる体験会になったと思えました。■参加者が帰った後は倶楽部員だけの反省会を行いました。この度の体験会でも新たな課題が出て今後の倶楽部の活動にも活かしていければ良いと思えました。昨今の気候変動に対する減災だけではなく害獣を含めた山や森林の生物多様性の保全に、もりメイト倶楽部の活動が貢献できるように私も参加継続できればと思える体験会でした。



上：倒した木を一生懸命玉切りする。下：当日のスタッフメンバー

